

西丹沢のエコツーリズムの推進

吉田 直哉*

Ecotourism of Western-Tanzawa Mountains

Naoya YOSHIDA*

要 旨

吉田 直哉:西丹沢のエコツーリズムの推進 神自環保セ報 6 :47-53, 2009 西丹沢をモデル地域として 2005 年度から 2007 年度にかけて取り組んだ「丹沢エコツーリズム発信事業」について報告する。本事業では、専門家や地元の方で組織したエコツーリズム検討委員会で方向性を検討し、担い手(ガイド)の育成、エコツーリズムガイドラインの策定、拠点施設の整備に取り組んだ。これらの結果をもとに、今後の丹沢のエコツーリズムのあり方を考察した。

キーワード: エコツーリズム, ガイド育成, ガイドライン, 地域再生

はじめに

エコツーリズムは、観光産業、自然保護、地域振興の融合の形、と定義される(エコツーリズム推進協議会, 1999a)。わが国のエコツーリズムは、2004 年度から始まった環境省のエコツーリズム推進「5 つの推進方策」、2007 年のエコツーリズム推進法の策定などにより、ここ数年各地で取り組みが進んでいる(NPO 法人日本エコツーリズム協会, 2007; 環境省ホームページなど)。丹沢においても、2004 年～2006 年で実施された丹沢大山総合調査において、自然公園の適正利用の推進、地域の自立的再生などの視点から、エコツーリズムを推進すべきという政策提言がなされている(丹沢大山総合調査実行委員会, 2006)。この総合調査の 4 本柱のひとつであった「地域再生調査」では、地域資源や利用について調査するだけでなく、地域再生を住民やボランティア団体とともに考えるワークショップなどが開催され、問題解決に向けた実践的な取り組みが調査と並行して

行われた(系長ら, 2007; 日暮ら, 2007)。本事業報告は、これらの先行的取り組みのひとつとして、2005 年度～2007 年度に実施された「丹沢エコツーリズム発信事業」について、報告するものである。

事業の方向性の検討

事業に先立ち、丹沢のエコツーリズムのニーズ・実態調査を、NPO 法人日本エコツーリズム協会への委託のもとに実施した。その結果、丹沢では、把握できただけで少なくとも年間約 100 本の登山ツアーが企画されているが、そのほとんどは山頂に立つことを目的としており、じっくり自然を体験し地域にも貢献する「エコツアー」と呼べるようなツアーはあまり行われていないことが確認された。一方、登山ツアー参加者へのアンケートでは、「丹沢でエコツアーに参加したい」と回答した方が全体の 57%を占め、これは全国規模で行われたアンケート結果(「参加したい」が 55%)とほぼ同じ傾向であった(エコ

* 神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部自然保護課 (〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 657)

ツーリズム推進協議会, 1999b)。旅行会社へのヒアリングとツアー参加者アンケートの結果から、「知識・伝える技術・安全指導に優れたガイドによる自然解説つきの登山ツアー」が、丹沢で成立する可能性がもっとも高いエコツアーと推測された。

これらの結果を受け、識者や関係者、地域住民などで組織する丹沢エコツーリズム検討委員会を設置し(表1) 必要な取り組みについて検討を行った。

表1 丹沢エコツーリズム検討委員会

カテゴリー	委員
専門家	NPO 法人日本エコツーリズム協会 (検討委員長)
学識経験者	日本大学生物資源科学部
旅行会社	クラブツーリズム株式会社 株式会社小田急トラベル
ガイド	社団法人日本山岳ガイド協会
地域活動 NPO	NPO 法人丹沢森の仲間たち NPO 法人北丹沢山岳センター
地域住民	民宿第沢荘・喫茶山のさん太 旅館信玄館
自然体験施設	県立西丹沢自然教室

その結果、3年間で取り組むべき項目として、担い手(ガイド、コーディネーター)の育成、拠点施設の整備活用、ガイドラインの策定が挙げられた。これらの取り組みを通じ、事業終了後に民主導で担い手組織が立ち上がり、拠点施設を核としたエコツアーの実施、ガイド育成の継続などが行われることが期待される。また、大きなイベントを通じてエコツーリズムを広報することよりも、小さくても理念を共有できる推進組織からスタートし、資源の保全や地域活性化などのモデルを少しずつ地域に示して輪を広げていくことを、丹沢のエコツーリズム推進の基本方針とすることとした。

丹沢エコツーリズム担い手育成講座

丹沢エコツーリズム検討委員会の意見を踏まえ、西丹沢・山北町をモデル地域とし、2006年度～2007年度の連続講座として「丹沢エコツーリズム担い手

育成講座」を開講した。受講生は次の資格を有する方とした。

丹沢の自然と人が好きな20～65歳の方

丹沢のエコツーリズムの担い手として活動する意志のある方

第1回講座(合宿形式)に出席できる方

次のA～Dのいずれかに該当する方。A.自然、エコツーリズム等の専門知識や技術がある、B.山岳ガイドの専門知識や技術がある、C.西丹沢周辺に居住し、地域の自然や暮らし・文化を伝えていく意志がある、D.丹沢でのエコツーリズムの推進に活用できる専門知識や技術がある

受講生募集にあたっては、ホームページ、記者発表などのほか、丹沢大山ボランティアネットワーク、丹沢大山総合調査や自然公園指導員などのネットワークを活用し、丹沢の自然に関心を持つ方に参加を広く呼びかけた。また、地域活性化に興味を持つ地元の方の参加を期待し、山北町での広報を重点的に行なった。その結果、46名の応募者があり、書類及び面接選考を行い、24名の受講生が選考された。受講生の年齢は平均40歳、最年少23歳、最年長62歳で、女性は6名、山北町在住者は5名に対し都市住民(横浜市など政令市に住む方)が8名という構成だった。

講座は、2006年9月から開講した。ガイド・コーディネーターとして身につけるべきエコツーリズムの理念や知識、山岳ガイドの技術、西丹沢の自然や文化を学ぶ講義や実習など、合計40回、延べ25日にわたる講座カリキュラムである(表2)。受身ではなく、受講生自らが実践する内容を重視するカリキュラムとし、丹沢らしいエコツーリズムを考えるワークショップを数回企画した。その結果をもとに、丹沢らしいエコツアープログラムとして「登山」「シャワークライミング」「家族向けの自然体験」及び「里山」の4つのテーマを受講生が選び、一般から参加者を募って試行ツアーを実施した(表3、写真1)。

24名の受講生のうち、3名の方が健康上の問題や就職等でやむを得ず途中で受講を辞退されたが、残る21名は出席率80%以上の条件を満たし、講座を修了した。無欠席で取り組まれた方も5名おり、修了生全体での出席率は93%に達した。

表2 丹沢エコツーリズム担い手育成講座カリキュラム

分類	NO	講義名称	講座で学ぶもの	講師	実施年月日
エコツーリズムの基礎	1	エコツアー体験	エコツアーのイメージ共有	倉持武彦(西丹沢自然教室) 斉藤範子(丹沢湖ビジターセンター)	2006年9月8日
	2	エコツーリズム論	エコツーリズムの理念や社会状況	広瀬敏通(ホールアース自然学校)	2006年9月8日
	3	エコツアーガイドの役割	エコツアーガイドに求められる資質	広瀬敏通(ホールアース自然学校)	2006年9月9日
	4	伝える技術	インタープリテーションの意味と具体的方法	小林毅(岐阜県立森林文化アカデミー)	2006年9月9日
	5	伝える技術	インタープリテーションの実践的な技術	小林毅(岐阜県立森林文化アカデミー)	2006年9月9日
	6	おもてなしと顧客満足	顧客満足を得る接客、おもてなし	楠部真也(ビックオ)	2006年9月10日
	7	エコツーリズムにおける「地域」論	地域主体のエコツーリズムの意味と課題	広瀬敏通(ホールアース自然学校)	2006年9月10日
	8	ガイドの責任と保険	ガイドの責任の範囲や保険の仕組み	平野達也(ホールアース自然学校)	2006年12月9日
	9	環境保全の考え方と仕組み	エコツーリズムを環境保全に貢献する考え方と方法	海津ゆりえ(日本エコツーリズム協会)	2006年12月9日
	10	伝える技術	インタープリテーションの実践的な技術	田畑伊織(自然教育研究センター)	2007年6月2日
コーディネーター育成	11	エコツアー市場の動向	一般的な旅行及びエコツアー市場の動向	山田桂一郎(日本エコツーリズム協会)	2007年12月8日
	12	エコツアーの広報戦略	人を引きつける広報戦略	楠部真也(ビックオ)	2007年12月8日
	13	旅行会社と地域の役割	旅行会社が地域や地元ガイドに求めるもの	水野恭一(風の旅行社)	2007年12月8日
	14	エコツーリズムと地域振興	地域振興につながるエコツーリズム推進の事例	橋川史宏(地域振興プロデューサー)	2008年1月19日
	15	コーディネーターの役割	地元とガイド、来訪者をつなぐコーディネーターの役割	橋川史宏(地域振興プロデューサー)	2008年1月19日
山岳ガイド	16	登山ガイド実習	丹沢の自然の現状、山岳ガイドの基礎、安全登山	武川俊二、藤井一宇 (かながわ山岳ガイド協会)	2006年11月4日
	17	登山ガイド実習	丹沢の自然の現状、山岳ガイドの基礎、安全登山	武川俊二、藤井一宇 (かながわ山岳ガイド協会)	2006年11月5日
	18	救急救命法	心肺蘇生法、AEDの使用法、外傷手当、搬送法など	厚木市消防署	2007年1月16日
	19	登山ツアー企画運営論	登山ツアーの企画から実施に向けた準備や作業内容	黒川恵(アルパインツアーサービス)	2007年5月12日
	20	ガイド業務関連法律知識	ガイド業に関連する法律とガイド倫理・マナー	黒川恵(アルパインツアーサービス)	2007年5月12日
	21	スポーツ科学の基礎知識	スポーツ時の身体の生理的な反応、変化に関する基礎知識	菊地敏之(かながわ山岳ガイド協会)	2007年5月12日
	22	ガイド技術 安全管理技術および 気象、読図知識	安全確保技術、観天望気、読図技術	武川俊二(かながわ山岳ガイド協会)	2007年5月13日
	23	ガイド技術 レスキュー技術	事故や緊急時における対応	菊地敏之(かながわ山岳ガイド協会)	2007年5月13日
	24	ガイド技術の基礎知識	人を安全に誘導する歩行技術、ガイド技術	武川俊二(かながわ山岳ガイド協会)	2007年5月13日
	25	ガイド技術と歩行技術	さまざまなフィールドや環境に応じたガイド技術	武川俊二、重野太肚二 (かながわ山岳ガイド協会)	2007年8月25日
地元学	26	ガイド技術 レスキュー技術(実習)	安全確保技術(実習)	武川俊二、重野太肚二 (かながわ山岳ガイド協会)	2007年8月26日
	27	ガイド技術総合研修	山岳ガイド技術の知識、技術の総点検	武川俊二(かながわ山岳ガイド協会)	2007年9月1日
	28	丹沢概論・丹沢の自然環境問題	丹沢の自然の特徴、自然環境問題と対策	吉田直哉(自然環境保全センター)	2006年10月21日
	29	丹沢の植物	丹沢の植物に関する基礎知識	田村淳(自然環境保全センター)	2006年10月21日
	30	丹沢の動物	丹沢の哺乳類・鳥類に関する基礎知識	山口喜盛(丹沢湖ビジターセンター)	2006年11月11日
	31	丹沢の地形・地質	丹沢の地形・地質・成り立ちに関する基礎知識	門田真人 (生命の星地球博物館外来研究員)	2006年11月11日
	32	丹沢の歴史	丹沢の歴史に関する基礎知識	中川重年(京都学園大学)	2007年2月10日
	33	丹沢の里山文化	丹沢の里山文化に関する基礎知識	中川重年(京都学園大学)	2007年2月10日
	34	幕沢集落生活文化体験・交流会	西丹沢の山里の生活文化、地元の方々との交流	山北町幕沢集落の方々	2008年2月16日
	35	丹沢らしいエコツーリズムとは	丹沢らしいエコツーリズムとは何か意見交換	吉田直哉・中西のりこ (自然環境保全センター)	2006年12月9日
丹沢らしいエコツアー の企画実践	36	丹沢らしいエコツーリズムとは	丹沢らしいエコツアーをグループごとに企画	吉田直哉・中西のりこ (自然環境保全センター)	2007年3月10日
	37	モニターツアーの企画立案	エコツアーの企画の考え方、企画書の作成	広瀬敏通(ホールアース自然学校)	2007年4月14日
	38	メンバー内モニターツアー	モニターツアーの予行演習、改善	広瀬敏通(ホールアース自然学校)	2007年7月14日
	39	一般対象モニターツアー	エコツアーの企画・実践の総合実習	講師なし	2007年9～11月
	40	丹沢らしいエコツーリズムとは	丹沢らしいエコツーリズムのあり方・仕組み	吉田直哉(自然環境保全センター)	2007年11月17日

表3 講座で実施したモニターツアー

ツアー名	実施内容	実施日時	実施場所	参加人数 (人)	ガイド人数 (人)	参加料金 (円)	備考
体験！モロクボ沢で沢歩き	シャワークライミングを楽しみながら、水を考えるさまざまなプログラムを実施。	2007年9月17日	モロクボ沢 (山北町中川)	19	7	1,800	
山北の歴史と自然を訪ねて	山北の里地里山を散策しながら、自然物を使った染物体験、地元の食材を使った昼食を楽しむ。	2007年9月24日	日向地区と川村城址	19	5	2,000	
僕たちの森再発見	自然に触れるアクティビティを実施しながら西沢を下棚の滝まで往復する親子向けツアー。	2007年10月29日	西沢(山北町中川)	10	4	1,000	台風のため中止
西丹沢トレッキングツアー	静かなブナ林をじっくり体感しながら歩く登山ツアー。小田急トラベルと共催で実施。	2007年11月10日	道志村～畦ヶ丸～ 西丹沢自然教室	19	5	8,000	料金にはバス代を含む



写真1 モニターツアー実施風景

拠点施設の整備

エコツーリズム推進の拠点施設として整備することを目的に、山北町中川にある県立西丹沢自然教室の改修工事を行った。

西丹沢自然教室は、檜洞丸、大室山、畦ヶ丸などに登るルートの登山口に位置し、バス停と駐車場に隣接するため、登山者がトイレと登山届け提出に必ず立ち寄る理想的な立地にあるビジターセンターである。1973年の開館以来、登山・自然情報の収集と提供を中心に運営されてきたが、これらの機能に加え、エコツーリズム推進の拠点施設として機能するよう、次の点に留意して改修工事を行った。

登山や自然体験の初心者に対し、「次に来たときはエコツアーに参加してみよう」と思ってもらえるよう、広報スペースを充実させるともに、エコツーリズム推進団体がボランティアとして活動しやすい施設とする。

着替え、道具の保管、雨天対応など、エコツアー実施時に活用しやすい施設とする。

エコツアー参加者でない個人来訪者も、丹沢の自然についてじっくり学び、他の来訪者やスタッフとわかちあうことができる「交流スペース」を充実させる。

地域住民の方々にも展示制作に参加していただき、地域に愛される施設を目指す。

改修工事は2009年3月に完成した。内装と展示がリニューアルされた西丹沢自然教室を中心に、西丹沢のエコツーリズム推進の動きがますます活発になっていくことを期待したい。

ガイドラインの策定

エコツーリズム推進にあたっては、指針や理念をまとめた「ガイドライン」と、そのもとで地域ごとに守るべき具体的な「ルール」を定めることが望ましい(環境省・財団法人日本交通公社, 2004)。しかし、丹沢にはまだエコツアー実施団体がなく、丹沢一般に共通する理念を定める素地は整っていないこと、小さい推進組織が丹沢らしいエコツーリズムを地域に示して輪を広げていくことを基本方針とすることなどから、拠点施設(西丹沢自然教室)で進めるエコツーリズムの基本的な考え方を憲章としてまとめることとした。

丹沢エコツーリズム検討委員会で案を作成し、講座の受講生とも意見交換を行った後、「西丹沢自然教室のエコツーリズム憲章」を策定した(図1)。

「深緑学舎」
～ 西丹沢のエコツーリズムが目指すもの ～

檜洞丸、加入道、大室山、畦ヶ丸。
深山の名峰から湧き出た豊かな水は、
峻厳な谷を刻み、滝を下り、
ツキノワグマやニホンカモシカが棲むブナの森を、
深緑に染める。
豊かな森の恵みは、山里の素朴な暮らしを育み、
二千年の齢を重ねる箒杉が、
ゆったりと流れる歴史を見守ってきた。

私たちは、そんな「自然と人がともに生きる西丹沢」を
守り伝えていくため、
自然や文化を学び、わかちあうエコツーリズムの実践として、
次のような取り組みを行います。

- 1 お手伝いします あなたの「西丹沢」探訪
自然とともにある暮らしってなんだろう？
そんな思いをわかちあいながら、
森の恵みを体いっぱいを感じる
山歩き、里めぐりをご案内します。
- 2 自ら取り組みます 守り伝える小さな一歩
深緑の森を守り、森に育まれた文化を
後世に伝えていくために
必要なことは何かを、自ら調べ、考え、実践します。
- 3 輪を繋ぎます 森の仲間、里の仲間
一人で訪ねても、登山談義に花が咲(語らいの場、
山里の暮らし人と訪ね人が心を交わす「ひじろ」をつくり、
森の仲間、里の仲間の輪を繋いでいきます。

注：ひじろ…「囲炉裏」を指す西丹沢の言葉です。

神奈川県自然環境保全センター
神奈川県立西丹沢自然教室

図1 西丹沢自然教室のエコツーリズム憲章

丹沢エコツーリズムのこれから

講座の修了生 21 名からアンケートをとったところ、興味深い結果が得られたのでまず紹介したい。

修了生のエコツアー経験回数を訊ねたところ、2 回以上が 11 名いた一方で、0 回と答えた方も 10 名いた(図2)。丹沢のエコツアーガイドを目指す方は、必ずしもエコツアーに感動したからガイドを目指しているわけではないと言える。自然環境問題が叫ばれる丹沢では、自然の素晴らしさを伝えたいというよりは問題を訴えていきたいという動機で、エコツーリズムが動いていく可能性がある。

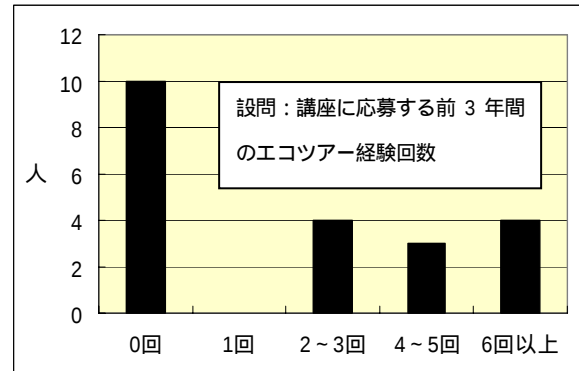


図2 講座修了生へのアンケート結果

修了生の受講前3年間のエコツアー経験回数

「どんな旅を面白いと感じたか」という設問に対しては、個人旅行や現地発着型ツアーなどを挙げた方が多い(図3)。さらにその内容を訊いたところ、自然や文化体験そのもののほか、個性的なスタッフや現地の方との出会いに面白さを感じている方が多かった(図3)。具体的には、ガイドが熱く語る姿、スタッフの思いが伝わってくる小さなひと言や気配り、地域の方との出会いなどを挙げる方が多い。「丹沢の大倉高原からの夜景、こんな場所ですごい光景に会えた(意外性)」、「温泉の湧出口を発見、自分で湯船を作って入浴(自ら発見すること)」、「ツアー中、絶景の中でのティータイム(プラスαを作り出す工夫)」、「ガイドしか知らないっておきの場所に案内してくれた(〇〇限定)」などを挙げた方もいた。

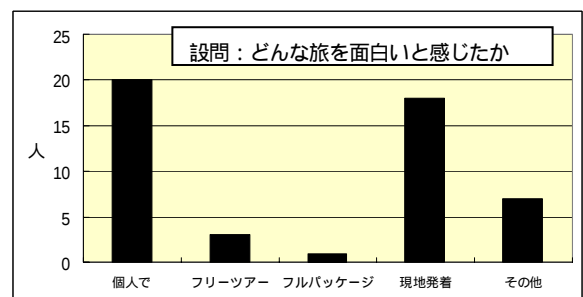
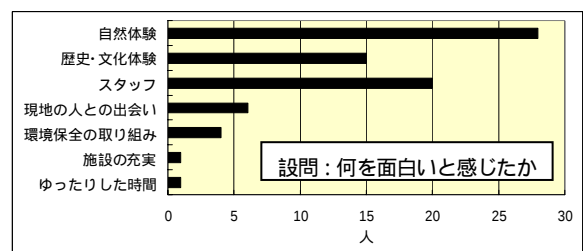


図3 講座修了生へのアンケート結果

修了生が面白いと感じた旅についての回答



逆に「行きたくない旅のイメージや、面白くなかった旅の経験」を聞いたところ、団体バス等での大人数での名所めぐりを挙げる方が多く、エコツアーであっても「ただガイドについて回るだけ」、「ガイドブックどおりの説明で質疑応答もないツアーは面白くなかった」という感想が寄せられた。

エコツアーは教育的な意味合い以前に、何よりも余暇活動、レクリエーションであり、楽しくなければ成り立たない。ガイド自身が「楽しい」と感じる企画をすること、楽しくないと感じたようなツアーは企画しないことを、今後の原点としてほしい。

また、講座の一環として実施した試行ツアーでの参加者へのアンケート結果を図4に示した。

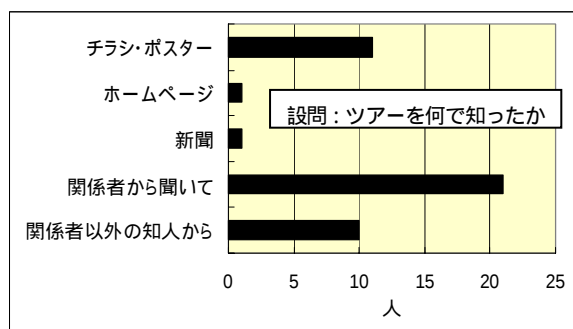
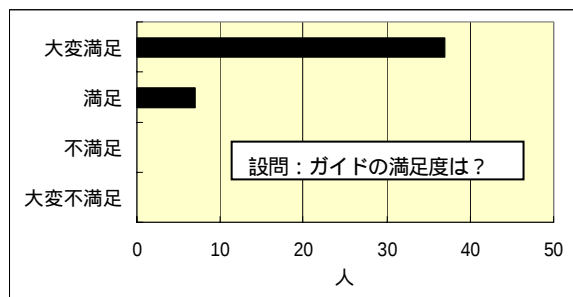
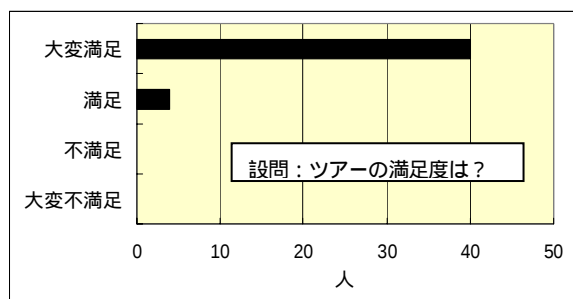


図4 モニターツアー参加者へのアンケート結果

ツアーの企画やガイドには非常に高い評価をいただき、その理由としてはさまざまな体験や学びなどの面白さのほか、ガイドの姿勢、地元の方との出

会いや地域の食材利用へのこだわりなどを挙げた方が多かった。一方、ツアーを何で知ったかという設問に対しては、関係者や友人知人から聞いてという解答が圧倒的に多く、口コミの大切さが示唆される結果となった。

これらの結果から、今後の丹沢でのエコツアーの方向性として、いくつかのポイントを指摘したい。

参加者の「出会い」をプロデュースする

ガイドとの出会い、地元の人やモノとの出会い、参加者どうしの出会い。これらの出会いがあって初めて、ただガイドについてポイントを巡るだけの無機質なツアーが、心の通ったツアーとなる。

拠点施設を活用した広報

いくら質の高いホームページやチラシを作っても、口コミの宣伝にはかなわない。エコツアーのリピーターを大切にするとともに、「あの人と一緒に山を歩いてみたいな」と思ってもらえるよう、拠点施設での声かけやボランティア等を広報に活用してほしい。

エコツアーだけがエコツーリズムの実践か？

ガイドが案内するだけのツアーから、参加者が自ら考えて歩くツアーへ、エコツアーが発展していくことを望みたい。「ガイドについて歩くツアーに参加すること」だけがエコツーリズムの推進ではない。また、ツアーに参加しなくても、自然や地域を学び、何か貢献する一歩を踏み出すような旅や山歩きであれば、それはエコツーリズムの実践であることを、ここに明記しておきたい。

担い手育成講座の修了生はNPO法人(申請中)「丹沢自然学校」を設立し、2008年度からさまざまなエコツアーを実施している。また、同じく2008年度からはNPO法人かながわ山岳ガイド協会もエコツーリズムの取り組みを始めており、これらの動きがさらに波及していくことに期待したい。今後、県はさらなるガイド育成を進めるとともに、丹沢自然学校をはじめとするエコツーリズム実践団体が活動しやすいよう、さまざまなサポートを進めていく段階に入る。エコツーリズムや環境学習に取り組むNPOや施設のネットワークを作り、広報を支援するなど、NPOと役割を分担し、さらなるエコツーリズムの推

進に取り組んでいく。豊かな丹沢の自然をまもり、自然環境問題を啓発し、地域の再生にもつなげる取り組みを、西丹沢から発信し、全丹沢、全国にも広げていきたい。

謝辞

この事業を進めるにあたっては、丹沢エコツーリズム検討委員会のみなさま、担い手育成講座の講師のみなさまと受講生の方々のほか、地元山北町・箒沢集落のみなさま、文教大学准教授の海津ゆりえ氏、資源デザイン研究所の高野千鶴氏、小田急電鉄の国安俊夫氏、西丹沢自然教室の倉持武彦氏にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

引用文献

糸長浩司・橋本忠義・奥村玄（2007）地域再生調査市町村ワークショップと地域再生フォーラム．（丹沢大山総合調査学術報告書，丹沢大山総合調査団編，794pp．，財団法人平岡環境科学研究所，神奈川）493-502．

エコツーリズム推進協議会（1999a）エコツーリズムの世紀へ．エコツーリズム推進協議会．319pp．

エコツーリズム推進協議会（1999b）エコツアーの有望性 - 現状と展望．社団法人日本旅行業協会．47pp

NPO法人日本エコツーリズム協会（2007）季刊ECOツーリズム＜号外＞エコツーリズム推進法成立記念特別号．NPO法人日本エコツーリズム協会．8pp．

環境省・財団法人日本交通公社（2004）エコツーリズム さあ、はじめよう！．財団法人日本交通公社．319pp．

丹沢大山総合調査実行委員会（2006）丹沢大山自然再生基本構想 - 人も自然もいきいき「丹沢再生」 - ．丹沢大山総合調査実行委員会．136pp．

日暮晃一・堀田志津子・栗原伸治（2007）地域再生調査 自立再生のためのケーススタディー．（丹沢大山総合調査学術報告書，丹沢大山総合調査団編，794pp．，財団法人平岡環境科学研究所，神奈川）519-532．